

施設見学研修報告

～陸上自衛隊武山駐屯地を訪ねて～

3月5日に、第20期の区民協議会メンバーは横須賀市御幸浜にある、陸上自衛隊の武山駐屯地を見学しました。同地には海上自衛隊、航空自衛隊の施設も隣接しているため、一帯の広大な相模湾沿いは“一大自衛隊ゾーン”となっています。訪問した陸上自衛隊駐屯地は全国の中学校卒業生を対象とした高等学校である「高等工科大学」と、東部方面隊

(国内を五つに区分)に属する、関東甲信越地方の新人陸上自衛官の教育を行う教育大隊と、関東地方の即応予備自衛官の招集訓練と、神奈川県の防衛警備と災害対処を担う普通科連隊、を柱とした「東部方面混成団」が配置されています。

我々は、このうちの普通科連隊で“災害対処”についてのお話しをお聞きしました。担当官は、平成27年9月の関東東



北部豪雨で常総市に前日の指令で出動し、2隊50人を指揮して人命捜索にあたった事や、新人の頃には中越地震で炊き出しに追われた経験を話されました。また、災害救援の出動要件や災害対策基本法・自衛隊法他関係法令との関係、活動に対しての精神面上での配慮等についてもお聞きし、そのあと、救援に向かう車両や救助器具、更には自衛隊メシと呼ばれる携行食料等を見させて頂きました。敷地内の印象は、寄宿舍の建物が多くを占める



中で、大型のジープやトラックが数十台単位であちこちに置かれており、迷彩服を着た隊員が行き交う状況は、やや非日常を感じると同時に、頼り甲斐も感じます。災害時には県知事が、いち早く出動要請を行い、救援を積極的に手伝ってもらうべきと痛感しました。

この施設では、1か月に18件程度の見学を受けている
そうで、説明担当の自衛官も冗談を交えた軽妙な説明

を行ってくれることが、迷彩服とやや不釣り合いで安らぎを得ました。

